



B - S T Y L E

《 暮らし方のコンセプトメッセージ 》

Message from harmony-life

VOL.10

Spring season

Breeze.....四季のうつりかわりを感じる風の音、風の温度、風の道。
 Breath.....心も体も深呼吸できる健康的な場所、リラックスの時間。
 Beauty.....日常の中で触れ、愛おしみ、感性を磨く不変の美。
 Built-in.....機能性と暮らしやすさを考えたオーダーメイドの設備。

『四季のうつり変わりを感じる風...』
 ハーモニライフが大切にしている4つのコンセプトの一つです。その中でも木々が芽吹き、花が咲き、動物たちが活動を始める季節...『春』を運んでくる風は、生命エネルギーに満ち溢れています。
 春になると外に出掛けたいのは、もしかするとこのエネルギーに満ち溢れた「春風」から、生命力を吸収するためなのかもしれませんね。そんな春風のパワーを毎日の暮らしで家の中に取り入れる為には、やっぱり『縁側的な空間』が一番ではないでしょうか。

昔から濡縁や広縁といった縁側が日本の住宅にはありました。又、ヨーロッパでもカフェテラスやガーデンテラスといった縁側的な空間があります。どちらも陽射しや風といった自然環境を家に取り込む為の入り口であり、リビングのようにつくるく場でもあります。いや、もしかすると時には「リビングよりも、くつろげる場所」かもしれませんね。

特に春はこの空間がフルに活躍する季節です。柔らかな春風を頬に感じながら家族との時間を過ごしたり、仲間が集まってバーベキューをしたり...わざわざ出掛けなくても日々の暮らしの中で、アウトドアライフが楽しめる空間なのです。もちろん周囲の景色が海や山であれば最高ですが、現実には隣家が迫っていたり、交通量の多い道路だったり...でも大丈夫！敷地を高い塀で囲ったり陽の入る中庭にしたり、と工夫次第で解決できます。下段にご紹介する7つの家の内5つがそうした市街地に建つ家なのです。

今年のゴールデンウィークは、のんびりと、こんな『縁側的な空間』で春風と共に暮らして見ませんか？

『春風を招き入れる
 『縁側的な空間』』
 口であり、リビングのようにつくるく場でもあります。いや、もしかすると時には「リビングよりも、くつろげる場所」かもしれませんね。

Spring ~ 春風と共に暮らす ~ Breeze

ハーモニライフがプロデュースした住宅の「縁側的な空間」をご紹介します。ハーモニライフでは住宅建築の付随的な「外構工事」としてウッドデッキなどを考えるのではなく、リビング空間の重要な一部としてウッドデッキやテラコッタテラスを捉えています。



No. HL-000



No. HL-004



No. HL-005



No. HL-006

No. HL-000... 『ハーモニライフ・オープンハウス』 / リビング空間の中心です。いつでもご覧頂けます。
 No. HL-004... 『愛犬と暮らす家』 / 楠の木漏れ日の中愛犬が走り回る芝生の美しいテラコッタテラスです。
 No. HL-005... 『海を眺めて暮らす家』 / 丹後の海から吹いてくるそよ風が心地よい海が見えるテラスです。
 No. HL-006... 『家族の声が聞こえる空間』 / 日を浴びて遊ぶ子供の声がリビングに聞こえるデッキです。
 No. HL-007... 『自然と共生する家』 / 清流のせせらぎと澄んだ空気の中で、素足が気持ち良い縁側です。
 No. HL-009... 『つながりのある家』 / 仲間が集い子供が遊ぶ。開放的なリビングと一体になった空間です
 No. HL-010... 『くつろぎリビング空間』 / リフォームで誕生したリビングにつながるウッドデッキです。



No. HL-007



No. HL-009



No. HL-010

東京通信 VOL.10

アウトドアウエア 倉野 路凡(くらのろはん)

今冬はいつもより寒く、珍しく雪も降ったもんだからヘビーデューティな服をよく着た。英国グロバーオールのダツフルコートや米国ジョンソンのマツキノクルーザー、ペンドルトンのウールシャツ群、オーストリアのホファのチロリアンジャケット等々。あとニットも着たなあ。漁師たちが愛用したアランセーターとか、ネイティブアメリカンが伝えたカウチンセーターとか。もっぱら足元は米国クオットディの手縫いブーツか、英国クラークスのデザートブーツだった。こうして東京という大都会にいながらにしてアウトドアの雰囲気を感じたのである。というより休日にはハイキングに行くという贅沢な時間が持てなかつただけだが、本来は自然の環境下で着るのが正しいのだから。

あのスキーウエアで有名なフェニックスが、70年代当時のデザインを復刻させたダウンジャケットとベストを発売したり、ニットやダツフルコートが流行ったり、アウトドアウエアが大変注目された年だった。でもこれらは定番商品だから来年の冬も着れるし、何より耐久性が抜群にあるのが有り難い。今後何十年間は着れるのである。

おそろくこのブームの背景には、景気の悪さが影響している。けつきよく来年着れないような奇抜なデザインは誰も買わないのだ。最先端の家電が発売される一方で、飽きのこない普遍的なデザインと、高機能を備えたアウトドアウエアが愛されるのわかるような気がする。

【倉野路凡プロフィール】ライター&セレクトター。ウオッチアゴゴ(節約腕時計術)、一個人(大人の傑作腕時計)、モノ・マガジン等で活躍中。